

## VENUS 投稿上の注意

原稿は正確・明確・簡潔に書き、会誌の体裁統一および編集の便宜上、投稿の際には以下の事項を守って下さい。これは編集労力の軽減や印刷費（組版代、製版代）等の節減にもつながります。また、投稿の際に連絡先に電子メールのアドレスもお知らせいただくと、通信費の節約になりますのでご協力下さい。

### 原稿の作成：

言語は英語もしくは日本語とする。原稿はワープロで作成し、1) 電子メールに添付、あるいは2) 郵送のいずれかで投稿する。1) 電子ファイルの場合は、テキストと図表のファイルをPDF化して一つにまとめることが好ましい。図は査読に支障を来さない程度に圧縮し、本文と合わせて2メガバイト以下とする。電子投稿の詳細は学会ホームページ参照 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj5/>)。2) 郵送による場合、プリントアウトした原稿、オリジナル（もしくはそれと同等）の図表、およびそれらの査読用コピー2部の合計3部を、書留で編集幹事宛て送付する。この場合も、原稿と図表のファイルを収めたCD-Rなどの記憶媒体を添付することが望ましい。

英文原稿の体裁：A4判の用紙に上下左右約3cmの余白をとりダブルスペース。構成はTitle page, Abstract, Keywords, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgements, References, 日本語のタイトル・著者名・要約、表、図の説明（英語のみ）の順。短報や分類学の論文などの特殊な構成を持つものはこの例に含まれない。なお、英文は投稿前に英語に堪能な人（できれば英語を母国語とする人）に充分校閲してもらうこと。

和文原稿の体裁：印刷の形式はA4判の用紙に1行40字で、査読・編集時に書き込みができるように行間を充分広く空ける。原稿の構成はタイトルページ, Abstract（英語）、キーワード、緒言、材料および方法、結果、考察、謝辞、引用文献、表、図の説明（英語と日本語併記）の順。

### 活字の書体：

英文フォントはTimes New RomanあるいはTimes、和文フォントはMS明朝あるいは平成明朝を使用。動植物の学名（属名、種小名）やラテン語の略号（*et al.*, *etc.* など）はイタリック体で書くか、アンダーラインを引きイタリックに指定する。英文タイトル下の著者の所属機関とその所在地もイタリック体。引用文献も後述する指示に従って、書体の指定をする。人名にはスモールキャピタルを用いない（例えばKurodaでなくKurodaとする）。その他の活字指定は編集委員に一任のこと。

### タイトルページ（Title page）：

タイトルページは本体とは別紙とし、論文の表題、著者名と所属機関および連絡先（英文原稿の場合は英語のみ、和文の場合は日本語と英語の両方）、英文の上欄見出し（running title）を記す。

論文の表題は研究の分野、対象、地域等の主題が判るように明瞭簡潔に。表題中の学名には分類学分野等の論文で特に必要な場合以外命名者、年号は不要。

著者名の下に所属機関および連絡先を、日本語の場合は丸括弧で囲んだ中に、英語の場合はイタリックで書き、脚注にはしない。複数の著者が2ヶ所以上の機関に所属する場合、上付き番号で各人の名前と所属機関とをはっきり対応させる。差し支えない場合はなるべく代表著者の電子メール・アドレスを英文住所に続けて書く。

Running title（奇数頁の上に出ている要約した英文表題）は、内容が判るように簡潔に記す。

### 英文要約（Abstract）：

Abstractは論文の最初（タイトルページの次）に置く。Abstractでは本文中の図や表の引用や文献の引用をしない。英文原稿の場合、Abstractと別に和文の要約を作成し、引用文献（References）の後ろにおく。和文の要約は本誌の性格上一般学術誌よりいく分詳しくするよう心がけること。

Abstractに続けて“Keywords:”として英語で原稿の内容をもっとも適格に表現する5単語内外を

挙げる。数単語で形成する熟語のような長いものは望ましくない。

#### 本文：

論文中での文献の引用は、黒田(1950), (Kuroda, 1950; Habe, 1952) のようにし、Kuroda<sup>1)</sup> の形式はとらない。また、引用した文献は本文末尾に集め、脚注や本文中での括弧つき引用などは避ける。また、英文では著者が2名の場合はandではなく&を用いる。長大な文献からの引用で、特定の引用箇所を示したい時はコロンを用いて黒田(1950: 106) とか (Habe, 1952: pl. 1, fig. 8) のようにする。

日本の地名は英文の場合外国の読者にも判るように緯度経度を入れるか、少なくとも northeastern area of Honshu とか western coast of Kyushu などの大地名を入れる(県名、小地方名のみでは外国人読者に理解され難い)。

謝辞は和文の場合“緒言”の最終節に入れても、論文の終わりに入れても差し支えない(脚注は不可)。英文の場合は論文の最後に Acknowledgements の見出しを付けて記述する。最近の欧米の論文では Mr. とか Dr. などを省略する例があるが、わが国の慣習からは肩書、所属はきちんと書くことが望ましい。

#### 引用文献 (References)：

掲載する文献は本文に引用のあるものに限り、また本文中で引用した文献はもれなく掲載しなければならない。投稿の前に引用文献の過不足がないかよくチェックすること。引用の形式と句読点は本誌最新号の例にならう。

著者の配列は姓のアルファベット順とし、その中は発表年順。引用文献の中では著者が何人いても省略せず英文の場合は A, B, C & D とし、和文の場合は A・B・C・D とする。同じ著者の論文は続いても著者名を——で省略しないで書き、また出典等も同上誌 (ibid) と略さない。雑誌名はイタリックで、*Bull. Natl. Sci. Mus., Tokyo* のように省略せず、*Bulletin of the National Science Museum, Tokyo* のようにスベル・アウトする。雑誌の巻はボールドとせず、号は省略する。ただし、巻がなく通し号のみしかない雑誌や、巻の中で号ごとに1ページからはじまる雑誌の号数は

括弧に入れる。文献にページの通っていない図版 (pl.) がある時は、その数をページのあとに書く(孫引きでコピーサービスなどを頼む時、付いている図版を落とされないので必要となる)。ピリオドやカンマについては下の例を参照のこと。

Kuroda, T. & Habe, T. 1954. New genera of Japanese marine gastropods. *Venus* (Japanese Journal of Malacology) 18: 84-97.

波部忠重. 1977. 伊豆諸島の陸産貝類相とその生物地理学的意義. 国立科学博物館専報 (10): 77-82, pls. 11-12.

単行本の場合は引用したページだけではなく、全体を引用する。ただし、各章によって著者が異なる場合はその章を引用し和文では In: 某(編)、英文では *In: A & B (eds.)* のようにして全体も記す。英文の場合、書名はイタリックで単語の頭文字は大文字。例：

Habe, T. 1977. *Systematics of Mollusca in Japan. Bivalvia and Scaphopoda*. xiii + 372 pp. Zukan-no-Hokuryukan, Tokyo.

波部忠重. 1977. 日本産軟体動物分類学, 二枚貝綱/掘足綱. xiii + 372 pp. 図鑑の北隆館.

Morton, B., Prezant, R. S. & Wilson, B. 1998. Class Bivalvia. *In: Beesley, P. L., Ross, G. J. B. & Wells, A. (eds.), Mollusca: The Southern Synthesis. Fauna of Australia. Vol. 5, part A*, pp. 605-638. CSIRO Publishing, Melbourne. (章ごとに著者が異なる場合; 下も同様)

波部忠重・濱谷 巖・奥谷喬司. 1994. 分類. *In: 波部忠重・奥谷喬司・西脇三郎(編), 軟体動物概説, 上巻, pp. 3-133. サイエンスティスト社, 東京.*

#### 表・図：

表は本文と別葉の原稿とし、印刷時に折込みになるものや2ページ以上にわたるものは避ける。表には横線のみを入れ、縦線は入れない。止むを得ない場合を除き、縦置きにならないように注意する。

図は本誌の印刷紙面 (20 cm × 13 cm) のサイズと比率を十分に考慮し、縮小されすぎないように、またスペースが無駄にならないように作成する(例えば貝殻の正面、殻頂面、殻底面からの3葉の場合これを縦積みになると左右に余白が多く

なり印刷面積が無駄になる)。標本などのサイズはスケールを図中に入れて示し、倍率では示さない。

原図をコンピュータの画像ソフトで作成する場合は、印刷時の大きさと解像度を、カラーおよびグレースケールの場合は 600 dpi、線画などの白黒 2 値 (1 ビット) の場合は 800 ~ 1200 dpi とする。画像ファイルは、原稿が受理された後、オリジナルのファイル (PSD や AI など)、もしくは特殊な画像ソフトを使用した場合は TIFF の形式に変換したものを、CD-R 等の記憶媒体に保存して編集幹事宛てに送ること。

版下原図をプリントされた写真や描画で作成する場合は、2/3 程度の縮小率を目安にして作図し、台紙に貼り、トレーシングペーパーなどの薄紙のカバーを付ける。また、投稿時に縮小率を指定することが望ましい。写真は光沢紙にコントラストやや強くかために焼いたものを用い、写植の貼り込み、トレースなどは原則的に投稿前に著者が済ませる。図中の符号や数字にはレタリングや明瞭な活字を用い、縮小率を考慮して小さくなりすぎないように注意する。

表および図にはそれぞれ通し番号を記し、挿入する位置を原稿の余白に記入する。和文論文であっても、表 1、図 2 でなく Table 1, Fig. 2 などを用い、本文中の引用もそれに従う。写真の集合が 1 ページ大になるときも図版 (Plate) として論文の最後に置かず、本文中の適当な場所に置いてそれぞれの図に続き番号を付ける。一つの図が幾つかの部分からなる場合 (例えば同一標本の正面、側面、背面写真) は大文字アルファベットの A, B, C で区別する。

図の説明は本文とは別葉の原稿にし、図に説明文を貼りつける必要はない。図および表の説明は本文が英文の場合は英文のみ、本文が和文の場合、英文と和文を併記する (和文の読めない外国人読者のため)。グラフ等に用いる cgs 単位の表記は大文字・小文字の組み合わせは決まっているので注意のこと。また単位の略号にはピリオドは必要ない。略号の説明はアルファベット順とする。

#### 新タクサ (種など) の記載：

新種や新亜種を記載する場合、ホロタイプは博

物館などの公共の研究施設に保管され、登録番号を与えられていなければ、原稿は受理されない。パラタイプやその他の証拠標本 (例えば DNA を抽出した個体) も同様にすることを強く推奨する。また、記載にあたって、国際動物命名規約第 4 版を遵守すること。

#### 短報：

速報の必要があるもの、あるいは原著論文とするには断片的だが報告に値する新知見を含んだもので、2 段組で刷り上り 4 ページ以内の短い論文は短報として投稿できる。短報においては、英語論文では Abstract は不要で、末尾に日本語要旨を付ける。日本語論文では英語の Abstract を本文の前に置く。原則的に見出しは Materials and Methods と Results and Discussion および References のみとし、簡潔に纏める。文献の引用形式は原著論文に準ずる。

#### 原著・短報以外の投稿：

「抄録」欄は主として外国で刊行された単行書および定期刊行物に掲載された学術報告の要約紹介を扱う。ただし国内出版物でも欧文で書かれたもの、定期刊行物でも VENUS の一般読者には参照しにくい性質のものは上記外国刊行物に準ずる。本誌の場合、通常の抄録より比較的詳しい内容紹介が望まれる。

「雑録」欄は研究集会の紹介、情報、学名変更などの断片的な短い記録等を扱う。

#### 投稿原稿の取り扱い：

投稿された論文 (原著論文および短報) の掲載の可否は 2 名以上の査読者の判断に基づき、編集委員会において決定される。VENUS 掲載が不相当と認められた原稿は不採用理由を明示して返送する。原稿に不十分なところ、もしくは訂正を要する箇所などのある場合には投稿者に勧告し訂正を求める。投稿者に返送された原稿が 2 ヶ月を超えてから再投稿された場合、新たな投稿として扱われる場合がある。

#### 校正

初校は著者が行うが、校正の際に内容、体裁を著しく改変してはならない。変更が著しい場合に

はそれに要する費用の実費を請求する場合がある。初校は受け取ってから原則として2日以内に返送すること。再校以降は編集委員会で行うが、この際に仮名遣い、綴りなど内容に立ち入らない程度の字句の加除訂正を行うことがある。

#### 別刷代その他：

原著論文は印刷時に20ページまで、短報は4ページまで印刷費を学会が負担する。これを超過したページやカラーページの印刷費は下記の通り請求する。但し、編集委員会が必要を認めた場合は、超過ページ代の学会負担分の拡大や、カラーページ印刷代の割引や免除などの軽減措置をとる場合もある。別刷は有償。別刷りや超過ページ・カラーページがある場合は、原稿受理後に送付される投稿票に必要事項を記入の上返送すること。著者有償分の代金は以下の通り。

- ① 別刷代金：7円×ページ数×部数
- ② 超過ページ印刷費：ページ当たり10,000円
- ③ カラーページ印刷費：ページ当たり20,000円（版下ができている場合。写植の貼り込みなどを要する場合は別料金が加算される場合もある）

なお、研究連絡誌「ちりぼたん」の投稿規定等は別途同誌に掲載されているものに従って下さい。

[最終改訂 2007. 2. 28]